



立教大学社会学部教授
萩原 なつ子
はぎわら



と しょ かん づう しん 通信

出版ストーリー「としまF1会議」

豊島区は、平成26年5月に、日本創成会議より、23区で唯一消滅可能性都市としての指摘を受けた。区は緊急対策本部を設置し、「女性にやさしいまちづくり」を掲げて、「としまF1会議」を設置した。「F1」とは、広告・放送業界のマーケティング用語で、20代から34歳までの女性を指す言葉である。当事者であるF1女性を中心とした32名の委員による調査研究をもとに提案された事業の中から、11事業に8800万円の予算が27年度に計上された。「若い女性の声を直接予算に反映したのは、区政史上初めて」（高野区長）と、いっぺん画期的なことだった。「としまF1

1会議」は自治体の政策形成に参画する機会がほとんどなかったといつてよい若い女性の視点を可視化させ、事業化を実現させる初めての試みだったことから、社会的にも大きな関心を集めた。実際、キックオフイベント「としま100人女子会」には14社のマスコミが参加者の周りを囲み、その後も複数回、そのような中、生産性出版の編集者から「としまF1会議」を本にまとめてみませんか」と打診をいただいたのは、豊島区の「女性にやさしいまちづくり」が軌道に乗り始めた2015年の秋ごろで

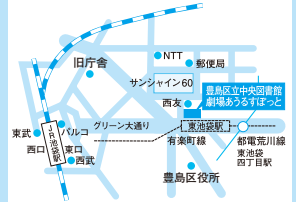


トピックス

- 巻頭言 立教大学社会学部教授 萩原 なつ子 …… 1ページ
- こらこらコラム ほぼ日の学校長／編集者 河野 通和 …… 1ページ
- 図書館と私 早稲田図書館長 矢部 功 …… 2ページ
- 生涯の一冊 ブックデザイナー 山田 英春 …… 2ページ
- この本カフェ …… 2ページ
- 豊島区と童話 百合女子大学人間総合学部教授 浅岡 靖央 …… 3ページ
- 子ども時代の愛読書 作家・歌人 尾崎 左永子 …… 3ページ
- 図書館イベント情報・図書館カレンダー …… 4ページ



発行 ●豊島区立中央図書館
東京都豊島区東池袋四一五一一
ライズアリーナビル四階・五階 〒170-8442
電話 ●03-3983-7861
FAX ●03-3983-9904
ホームページ ●http://www.library.toshima.tokyo.jp/
発行日 ●平成29年7月



新航路【43】

ある。願ってもないこと！とまさに「F1レース」並みのスピードで本づくりが始まった。主な執筆者はF1会議の委員と会議のすべてのプロセスに深く関わっていた豊島区職員。


本書は「としま100人女子会」「としまF1会議」でのチーム編成からフロン発表、提案事業の予算化など、女性たちの提案が区政にいかにか反映されたか、そのプロセスが臨場感いっぱいに記されている。みんなで候補を出しながら、あてもない、こうでもない、と決めた本のタイトルは「としまF1会議ー消滅可能性都市270日の挑戦。」豊島区を消滅させない！という「としまF1会議」の熱い思いがギュッと詰まった1冊。ぜひ、豊島区立図書館で手に取っていただきたい。

子どもたちに「読書の貯蓄」をすすめます ～読書ノート・読書通帳～

いよいよ子どもたちにとって待ち遠しい夏休みがやってきます。夏休みは様々なことを体験する絶好のチャンスです。読書もその一つです。図書館では小学生への応援グッズ「読書ノート」を作製し、全館で配付しています。自分が一番面白いと感じたところを記録してください。あとで読み返すことも楽しいものです。また、「ロボット『Pepper (ペッパー)』に会える図書館」の池袋図書館・目白図書館の2館では小学生対象に「読書通帳」を配付しています。通帳を機械にかければ貯金のように「本」という知識や感動が貯まっていくのがわかります。いずれも利用登録が必要ですが、その場ですぐに登録できますので、これをきっかけにぜひ、お近く

の図書館にお越しください。その他「図書館タンテイ」などのイベントが目白押しです。読書の楽しみは様々ですが、図書館は子どもたちの知恵と力になることを願っています。図書館で涼しい夏を過ごしましょう！

河野 通和 (こうの みちかず)
プロフィール
1953年岡山生まれ。東京大学卒業後、中央公論社(現在の中央公論新社)入社。「婦人公論」「中央公論」編集長を歴任。その後、新潮社で季刊誌「考える人」編集長を務める。本年4月「ほぼ日」に入社し、ほぼ日の学校長。



こらこら コラム

第1回 編集者の基本動作

ほぼ日の学校長／編集者 河野 通和

最近最も驚いたニュースの一つは、山口県周南市が来春オープンする図書館に、中身が空洞の「ダミー本」3万5千冊を、約152万円で購入する計画を立てていたことでした。なぜそんなことを？といえ、一本に囲まれた圧倒的な空間づくりを演出する「ためなの」だとか。ダミー本は完全に、来館者に「うおっ」と思わせるための裝飾用小道具という位置づけです。この図書館、10万冊収容可能ないわゆる「ツタヤ図書館」の一つですが、約3分の1がダミー本とあっては、誰のための、何を目的とする図書館なのでしょう？ 読めない、貸し出せない、蔵書にもならない—そんなお飾りで占められたまがいものの文化施設に、税金を使っているのか…。さすがに議論が巻き起こっている様子です。どういう結論に落ち着くか、顛末を聞くのが楽しみです。

さて、今回からこのコラムを担当させていただく私は長らく雑誌の編集者をしてきました。中央公論社(現在の中央公論新社)発行の「婦人公論」「中央公論」、新潮社の季刊誌「考える人」のそれぞれ編集長を務めてきました。この間、いろいろな先輩に教えられたことは多々ありますが、ある先輩は「好きな作家の本は必ず3冊買い揃える」と語っていました。まず1冊は、徹底的にその本を読み込むための格闘相手として。次の1冊は、自宅の本棚に並べて、その本を愛でながらともに暮らしたいという愛書家の快楽のため。最後の1冊は、誰かにその本を「読め！」と書いて勧められたためでした。

この話が忘れられないのは、これが編集者の基本動作にもつながるからです。著書を徹底的に読み込み理解する、次に自分の知的宇宙にその本を位置づける、さらにそれを読者に伝えて広める、という。中身が空っぽのダミー本と聞いて、久々にこの先輩の教えを思い出しました。エッセイ文化人を見ると「コミタ」「クスダ」と悪態をつくの、この人のもう一つの癖でした。

立教大学社会学部／大学院21世紀社会デザイン研究科教授
明治学院大学卒業。お茶の水女子大学大学院修士課程修了。博士(学術)。「としまF1会議」座長。広範なネットワークを生かして、様々な分野においてユニークで斬新なイベントを仕掛けている。専門は環境社会学、ジェンダー論、市民活動論。

生涯の一冊

(44)



『石の花』
パーヴェル・バジョーフ著
島原落穂訳／A・ベリユーフ著
童心社 1979年

ブックデザイナー
やまだ ひではる
山田 英春

1962年東京生まれ。
著書に『巨石』『不思議で美しい石の
図鑑』『石の卵』『奇妙で美しい石の世界』などがある。



石の不思議な魅力を伝える

私は本の装丁の仕事をしています。また、世界
の様々な石を紹介する本を書いています。石
にまつわる本でお勧めの作品は？と聞かれるこ
とがあります。そんなとき、バジョーフの『石の花』
をお勧めしています。それなら子供の頃読んだと
いう方も多いと思いますが、大人になって読むと
また味わい深いのです。

『石の花』は一九三五年に書かれた、一八世紀
〜一九世紀頃のロシアのウラル地方を舞台にした
幻想的な創作童話集です。孔雀石の採れる銅山と
その周辺に生きる人々、そして、山の奥深くに

すむ妖しく不思議なものについて語る短編集です。
創作ですが、当時の銅山の所有者や採掘場の監督、
過酷な労働を強いられる坑夫たちの様子など、多
くが史実に基づいています。
孔雀石は深い緑色で、その名の通り、孔雀の尾
羽根のような流麗な渦巻き模様が特徴です。とて
も美しい石ですが、模様をじっと見ていると心惑
わされるような妖しさを感じさせる石
でもあり、それはこの童話集全体に貫かれたイ
メージでもあります。

収録作中、私が最も好きな連作「銅山のあねさま」
と「孔雀石の小箱」は、貧しい青年坑夫と彼の娘
の奇妙な運命を描いた作品です。坑夫は山で鉱山
の化身である妖艶な女性「銅山のあねさま」に会い、
見初められます。彼は若くして亡くなりま
すが、彼の娘にはあねさまからもらった宝石
の入った孔雀石の小箱が残されます。娘は美しく
成長し、あねさまと心を通わせる者となり、周囲
の者たちを眩惑しながら、やがてこの世の贅をつ
くした豪華な宮殿で皇帝の妃に謁見します。
人間の欲望、富への執着を、それらを超越した
自然の圧倒的な美との対比で寓話的に描いた作品
ですが、作者が自分が育った地の伝承を元に書い
ていたため、全体に底知れない夢幻の空気がみな
ぎっています。
平易に訳された童話ですが、深みのある幻想文
学作品であり、実際の孔雀石の姿を知って
読むとさらにイメージが広がります。



図書館と私 32

千早図書館長 矢部 功

トキワ荘に思いを寄せて

千早図書館を入ると正面に「鉄人28号」が出
迎えてくれる。「鉄人28号」は、千早に45年間
住んでいた横山光輝の代表作だが、実は僕には
マンガの聖地・トキワ荘に個人的な思いがある。

昭和38年正月、小学3年の僕は秩父の山脈が
窓越しに大きく見える埼玉県西部の病院に入院
していた。ウィルスが心臓に感染し、弁膜の機
能に不具合を生じさせる病気だ。前年の10月
に入院し、当初は高熱が続き、体中の関節が痛
み、歩くことさえ困難だった。年が明ける頃
には外見上はすっかり元気になったが、心臓に負
担がかかる行動は禁止で、毎日退屈でたまらな
かった。

そんなとき隣のベッドの子が「鉄腕アトム」
や「鉄人28号」を連載していた漫画雑誌をよく
貸してくれた。退屈しのぎに、毎号全てをノー
トに書き写しているうちに、手塚治虫や横山光
輝のキャラクターに似せた登場者でストーリー
漫画を描くようになった。叔母が見舞いに来た
とき、「上手いね。これなら将来漫画家になれ
るよ。頑張れ。」とよく元気づけてくれた。3
月に退院した僕はその後運動は禁止で益々漫

画にのめり込んだ。「虫プロダクション友の会」
に入会し、機関誌「鉄腕アトムクラブ」を毎月
読んで、手塚治虫やアニメの情報を得た。たま
に、「鉄腕アトム」や「ジャングル大帝」、「リボ
ンの騎士」などの実物のアニメセル画も付録で
貰えるのが楽しみだった。小学校卒業の頃には
ストーリー漫画を級友に配り面白がられてい
た。担任の先生は「君はきっと漫画家になるか
ら記念にするよ。」と言われ2作渡した。

僕の漫画熱も高校受験を向かえる頃には、次
第に下がっていった。ちょうどこの頃虫プロダ
クションが倒産し、友の会も解散した。手塚治
虫が大変な時期を向かえた頃だ。その後の僕は
残念ながら先生の期待には乗れず、豊島区職員
になっていた。

その後トキワ荘の跡地には日本加除出版がで
きたとのことだが、僕はこの出版社から1996
年に当時仕事で携わっていた戸籍事務のコン
ピュータ化に関する本を出している。入稿が締
め切りに間に合わず、出版社に泊まり込みの缶
詰にされた。そこがトキワ荘の跡地であること
を後で知って驚いた。これも何かの縁かな。



いらっしゃいませ！ 10杯目の「この本カフェ」をお届けいたします。「旅先
で読みたい本」「にたつで読みたい本」「ジャンプしたくなる本」「背筋がゾッ
とする本」など、毎回のテーマに沿った本を3冊ずつ紹介してきました。でも、
「カフェ」と言いながら、これまでコーヒーも出さずにごめんない、11杯目か
らは、「リアル・この本カフェ」も時々開店します。本と飲み物で、人生のお
しゃべりを十分に楽しんでいただけるでしょう。どうぞ、お立寄りください。

10杯目 『10』にこだわる！

書名 『十年後のこと』
曉方ミセイ 他 / 著 河出書房新社 2016年

十年という時間の流れのどこに自分を置くか。その位置によって、流れの渦の見え
方は、様々に変化する。35人もの力を借りて十年という時間をプロットすると、こんな
感じになるのか。巻末に多彩な著者の一覧が載せてあるのだが、えっ、この掌編作品
集の並び順は「あいうえお」順。前書きも後書きも省略した一冊。編集者が広げた型破
りの網にかかってみますか。
十年前あるいは十年後、いったい私は何を思い、何をしているか。今は教えたくない
けどな。 ➡【三瓶 裕雅(さんぺい ゆうか)】



書名 『夢十夜』
夏目漱石 / 著 新潮社(新潮文庫)『文鳥・夢十夜』より) 1976年

「こんな夢を見た」で始まる夢十夜は、10の話から成る。
男が、死んだ女の墓の傍で百年待つ、という第一夜。ラストで、負ぶった盲目
の小僧に「お前がおれを殺した」と言われ、初めて人殺しだったと気が付く、怖い
第三夜。それぞれの話は4ページほどでいたって短いが、言葉の一つひとつをゆっ
くり味わっているうちに異空間が立ち上がる。
最近の私は昨日見た夢もなかなか思い出せないが、漱石の『夢十夜』は目覚め
と共に消えることなく、私たちを心の深いところまで連れて行ってくれる。
➡【古川 依子(ふるかわ よりこ)】



書名 『ねこねこ 10匹きのねこ』
マーティン・レーマン / さく ほしかわなつよ / やく 童話館出版 2003年

本書は、カーペットの上ですましている猫、浜辺で寝そべる猫、塀の上を歩く
猫など、10匹きの猫の様子を紹介した子ども向けの絵本。原題はTEN CATS
AND THEIR TALE(10匹きのねことその物語)で、登場する猫はそれぞれ個性
派ぞろいだ。品よく、それでいて周りに媚びるでもなく、気ままに生きる様子は、
なんだかとても爽やか。各ページの猫をじっと見つめていると、今にも動き出
しそう。読み聞かせをすれば、お子さんと一緒に「十匹十色」の猫の物語を楽し
むことができますよ。にゃーお ^^ ➡【佐藤 壮広(さとう たけひろ)】



寄稿者とはしまコミュニティ大学の学習者の内、登録して学んでいる「マナビト生」です。マナビトゼミ担当の人類学者佐藤
壮広氏の指導のもと、毎回テーマに合わせて文学、児童書、評論や科学などの分野からお薦め本を1冊紹介しています。

豊島区

全3回
第1回

と童話



著者プロフィール
 白百合女子大学人間総合学部児童文化学教授。研究分野は近代日本児童文化史。主著として『児童文化とは何であったか』(日本児童文学学会奨励賞受賞)があり、近年は紙芝居の研究も手がけている。

『赤い鳥』から『黄金ハット』へ

豊島区と児童文化

『赤い鳥』の誕生

豊島区は、1932(昭和7)年、旧北豊島郡の巣鴨・西巣鴨・高田・長崎各町を合わせて新設された区だ。さかのぼること14年、1918(大正7)年7月、その高田から日本の児童文学に「時代を画した雑誌『赤い鳥』が世に送り出された。豊島区立郷土資料館「こどもの再発見」豊島の児童文化運動と新学校」(1991年)には、「大正から昭和初期にかけての豊島区地域が、児童文化運動と自由教育運動の発祥地であり、中心地であった」と記されている。



『赤い鳥』復刊第1巻第1号
 鈴木三重吉 / 主幹
 清水良雄 / 表紙絵
 日本近代文学館 1981年

子どもための「こ」の運動の発祥地・豊島区

児童文化運動とは、「赤い鳥」に加え、次々に創刊された『おとぎの世界』『金の船』『童話』といった雑誌を舞台にして、童話・童謡・童画など、童心主義とも称される清新な内容とスタイルで、子どものための文化創造が盛んになったことをいう。

自由教育運動は、画一的な公教育に反対し、子どもを自由を教育の基本理念に掲げるもので、その実現をめざす新学校が後の豊島区に次々と創立された。1912(明治45)年の帝国小学校(巣鴨)、1915(大正4)年の成蹊小学校(池袋)、1921(大正10)年の自由学園(雑司が谷)、そして1924(大正13)年の池袋児童の村小学校(池袋)である。

この二つの運動が、豊島区をその発祥の地としてこちらも全国的に展開されていったことは、もっと注目されてよいことだ。背景には、都市部における新中間層の増加がある。安定した給与収入を保障された会社員・公務員・教員などである。それらは世襲ではなく、学歴によって獲得される職業であるから、彼らは自らの子どもによりよい学校教育を望むとともに、家庭でもよりよい読み物を与えようとした、というわけである。

都心部に比べて地価も安く、住宅が建てやすかった当時の豊島区に、そうした運動を進めようとする専門家(作家・詩人・画家や教員)が住み着き、同時にその支持者となった親子も大勢暮らしていた。

人口の急増と街頭紙芝居の登場

一方、その後の豊島区域では、より貧しい人たちの数が急増した。この地域の人口は、1920(大正9)年の11万人から1930(昭和5)年の24万人へと、10年間に倍以上に増加している。都市化によって都心部にあった工場が郊外に移転し、工場労働者が増加したこと、1923(大

正12)年に起きた関東大震災の後、甚大な被害を被った下町から、被災者が多数移住してきたことが原因とされている。豊島区域には、安定した新中間層の住む地域と不安定な生活を余儀なくされる下層の人々の住む地域との両方が出来上がったのだ。

1929(昭和4)年に起こった世界大恐慌は日本にも大量の失業者を生んだが、その失業者たちが飛びついた職業の一つに、街頭で子ども相手に駄菓子を持って紙芝居を見せる街頭紙芝居があった。1930(昭和5)年の末、現在の台東区で生まれた「黄金ハット」が下町の貧しい子どもたちの間で大人気となり、街頭紙芝居屋は急増した。1935(昭和10)年、当時の東京市社会局は、子どもたちへの悪影響を案じるとともに、紙芝居屋という新しい職業の実態を調べるために調査を行い、報告書「紙芝居に関する調査」を発表している。

それによる、街角のあちこちで紙芝居を見せながら駄菓子売り歩く紙芝居屋はその紙芝居を有料で貸し出す貸元(所)に所属していた。貸元の所在地のほとんどは荒川区・台東区・墨田区など下町であったが、豊島区にも一ツ貸元が存在していた。紙芝居屋の人数も、最も多い荒川区の93人に対して豊島区にも32人いた。つまり、豊島区は山の手では唯一、街頭紙芝居の盛んな地域であり、それだけの営業を可能にするお客、つまり下層の子どもたちも大勢いたということになる。

子どもたちに届けられる物語文化

『童話』を文字通りに解釈すると、児童(子ども)に届けられる話(物語)となる。その意味では、紙芝居「黄金ハット」も一つの童話である。大正から昭和初期にかけて、『赤い鳥』を生み、「黄金ハット」を受け入れた豊島区は、当時の日本における子どもたちの置かれた状況と、彼らに届けられた多様な物語文化が混在した地域であり、それはいわば日本全体の縮図であったとも言える。

こども時代の愛読書(全3回)

第1回 『南総里見八犬伝』



作家・歌人
 尾崎 左永子
 生まれ、東京女子大学国語科卒業。佐藤佐太郎に短歌を、松尾鶴に古典を学ぶ。歌集『さるびあ街』(第4回日本歌人クラブ推薦優秀歌集)、著書に『源氏の恋文』(第32回日本エッセイストクラブ賞)、『佐太郎秀歌私見』(第6回日本歌人クラブ大賞受賞)ほか多数。

子どもの頃に読んだ本というものは、年を重ねてもなお、心の底の思いがけない重石となっており、人の精神を支えているように思います。昭和戦前生まれの私の愛読書は数え切れないほどありますが、今回は江戸時代の滝沢馬琴の書いた『南総里見八犬伝』を子ども向けにどうか確かではありませんが、かなり分厚い本で、ただし総ルビでし、当時はまだ旧力な時代でしたから、もう、はじめからワクワクドキドキ、一色刷りの挿絵とともに夢中になって読み進めたものでした。

安房の国守里見義実は、戦いの中で窮地を救ってくれた犬の八房に、約束通り愛娘を与えざるを得ませんでした。姫の名は伏姫、ここにも人と犬の字が出て来ますが、姫は白衣に身を包み、役行者から授かった八つの珠、「仁義礼智信忠孝悌」の八文字の浮き出ている水晶の珠数を頸にかけ、八房の背に乗って山に消えて行きます。

やがて姫は犬の情に感応して身ごもり、自ら刃をわが身につけて死んで行きます。するとその時、ふしぎな雲が湧いて、首の珠数を包んで中空に漂い、一瞬、糸が切れて、八つの珠が四方に散って行くのです。

やがてその珠を授けられ、牡丹の痣を身に帯びて各地に生まれ八人が、義兄弟の約を交わして里見のために闘う、という、勇壮な物語に続きます。その八人すべて「犬」の入った苗字を持っており、犬塚信乃、犬坂毛野、犬江親兵衛はじめ、犬川、犬飼、犬田、犬山、犬村の八犬(剣)士。犬の八房の名も八犬士の八に関わりがあるのでしょう。

中でも私の大好きだったのが犬塚信乃。色白の美男子で、歌舞伎では「芳流閣の戦い」で大屋根の上で大立廻りをする素敵な役。それに、この話には「武蔵国豊島郡菅原大塚の村」というのが出て来て、昔曾祖父が建てた巣鴨五丁目(大塚に近い)の家で生まれたという私にとっては、たいそう身近な話だったので。

図書館イベント情報

★…児童・あかちゃん向け ●…一般向け

毎週、本の読み聞かせなどのイベントを行っています。遊びに来てくださいね。

- 各図書館の連絡先
- 中央図書館 3983-7861
 - 駒込図書館 3940-5751
 - 巣鴨図書館 3910-3608
 - 上池袋図書館 3940-1779
 - 池袋図書館 3985-7981
 - 目白図書館 3950-7121
 - 千早図書館 3955-8361
 - 雑司が谷図書貸出コーナー 3590-1335

主催/会場	おはなし会開催日		スペシャルイベント			
	幼児・小学生	あかちゃん	7月	8月	9月	
中央図書館 児童コーナー (※印は会議室)	日曜日 14:00	最終日曜日 10:30 11:30	●14日・子どもの読書に関する講習会 14:00~16:00 要申込 ★15日・豊島岡女子学園による 読み聞かせおはなし会 14:00~14:30	★4日・こわいおはなし会※ 16:00~17:00 ★20日・夏休みこさく会※ 14:00~15:00	★3日・おはなしこさく会 14:00~14:30 ★16日・豊島岡女子学園による 読み聞かせおはなし会 14:00~14:30	
駒込図書館 こまちゃんのへや (※印は地域文化創造館)	土曜日 15:00	第1水曜日 11:00		★19日・こわいはなしスペシャル 15:00~16:00 ★26日・こさくがいー絵本をつくろう!※ 14:00~15:00	★16日・おはなしをおくろう※ 13:00~	
巣鴨図書館 地下会議室	水曜日 15:30	第3火曜日 11:00	★5日・たなばたスペシャル 15:30~16:00	★2日・こわいはなしスペシャル 15:30~16:00 ★16日・かがくあそび 15:30~16:00	★27日・かみしばいのひ 15:30~16:00	
上池袋図書館 おはなしのへや (※印は地下ホール)	水曜日 15:00	最終水曜日 11:00※	★8日・親子で楽しむ映画会※ 14:00~14:30	★14日~20日・上池袋YAフェスタ ★19日・さくらんぼかがくこさく会※ 11:00~12:00 ★26日・親子で楽しむ映画会※ 14:00~14:30 「最後の嘘」ほか	★16日・おはなしをあげよう 10:00~12:00 ★23日・さくらんぼ映画会※ 13:30~15:00 「トムとジェリー」	
池袋図書館 ワークルーム (※印は区民会室)	土曜日 14:30	第1水曜日 11:00	●12日・読み聞かせ講座-夏休みにおすすめの絵 本たち※ 11:00~12:00 ★24日・煮干しの解剖教室※ 14:30~16:30 ★29日・図書館タンテイスペシャルおはなし会 14:30~15:30	★6日・平和について考えるおはなし会 14:00~15:30 ★10日・みんなでポップをかいてみよう 14:30~15:30	★20日・読み聞かせ講座※ 11:00~12:00 ★23日・敬孝の日スペシャルおはなし会 14:30~15:30	
目白図書館 地下区民会室	水曜日 15:00	第1水曜日 14:00	●10日・大人の写真講座 10:00~11:00	★5日・こわいおはなし会 15:00~15:30 ★16日・<へいわ>のおはなし会 15:00~15:30	★9日~10日・こどもボイス おはなしをあげよう ●11日・大人の写真講座 10:00~11:00	
千早図書館 視聴覚室	水曜日 15:30	水曜日 10:30		★9日・ほんとこ工作会 15:30~16:00		

日程・会場等が変更になることがあります。事前にお問合せください。

図書館 タンテイ

7月29日(土)~8月6日(日)
開館時~午後4時30分

ただし、8月1日(火)は駒込図書館・上池袋図書館・千早図書館が休館です。

図書館クイズに挑戦して、
君も図書館タンテイになろう!

図書館にあるたくさんの本の中から答えを探し

対象:小学生 認定証をもらおう!

それぞれの図書館のテーマは次のとおりです。事前申し込み不要、参加費無料です!

図書館	テーマ	内容
中央図書館	真夏のジャングルアドベンチャー	図書館に突如あらわれたナゾの森。フシギな生命たちが待ちうけるこのジャングルから君は脱出することができるか?
駒込図書館	怪人こまちゃんvsこまと探偵団	悪い魔法で、こまちゃんが怪人になっちゃった! 君たち「こまと探偵団」と桜の力で、こまちゃんを助けよう!
巣鴨図書館	ことしもじぞうトラベルはじめました★	乗りものによっていろいろな世界へ旅をしてみよう。じぞうガイドが見たことのない世界へご案内します。
上池袋図書館	救え!ぼくらのカミィ!	おそろしい世界に迷いこんでしまった、カミィ。このままだと優しいカミィが、ブラックカミィに...! 君たちの知恵で、カミィを救い出そう。
池袋図書館	求む!スペースレンジャー!!	宇宙にちらばる7つの星をめぐり、さまざまなナゾを解明せよ! 君はスペースレンジャーのあかしをゲットできるかな?
目白図書館	ムッシュ・メジロ探検隊とまぼろしの宝	おさんぼ・ハイキング・アドベンチャーの3つのコースを探検しよう。君だけの宝を手に入れられるか!?
千早図書館	ちはやちゃん、世界食べあるきの旅	きつねのちはやちゃんと一緒に、世界中のおいしいものを調査しよう!

YAフェスタ

YA(ヤングアダルト)とは「子どもでも大人でもない世代」のことをいいます。この夏、中高生を対象にしたYAフェスタを開催します!クイズやポップ作成を行う本のイベントです!参加賞のプレゼントもあります!ぜひご参加ください!

日時 8月14日(月)~8月20日(日) 開館中随時受付
会場 上池袋図書館YAコーナー
申込 事前申込不要、無料

開講予告!

書評講座~私に響いたこの本II期~(全3回)

本の書評・短評・ポップを作成し、ポップを図書館に展示します!

講師 書評家 佐藤 壮広氏 (2頁「この本カフェ」監修者)
日時 9月20日(水)、10月18日(水)、11月15日(水)
18:00~20:00

会場 中央図書館5階会議室
定員 20名
参加費 1,000円(高校生以下500円)
展示 11月25日(土)~12月21日(木)
申込 8月より受付開始予定
(詳細は図書館HP等でお知らせします。)

子ども点字教室

~点字を書いてみよう、読んでみよう~

点字器を使用して点字を打つ体験、点字に関する図書館の紹介

日時 8月5日(土) 10:30~12:30
会場 中央図書館5階会議室
対象 小学3~6年生(複数人での申込み可)
定員 15名(先着順)
申込 7月11日(火) 10:00から申込受付
点字図書館 電話 3983-7864

調べる学習を応援します!! 事前に各館へお申し込みください。

★児童向け調べる学習講座★

なぞときやクイズに挑戦して、
本を使ってわからないことを調べるコツを知ろう!

- 上池袋図書館「しらべう学習応援講座」
日時 7月29日(土) 10:30~12:00 定員 15名
- 目白図書館「なぞとき★調べ学習!」
~調べて見つけるって、こんなに楽しい~!
日時 7月29日(土) 14:00~15:30 定員 6名
- 駒込図書館「子どものための調べ方サポート」
-怪人こまちゃんからの挑戦状-
日時 8月1日(火) 14:00~15:30 定員 10名

●おとなの調べる学習講座●

図書館にある検索機OPACの利用方法を説明します。
レファレンス例題を出題しますので、調べものをするときの
解決方法を学べます。

- 駒込図書館「気象予報士に聞く!-大人の調べる学習講座」
日時 7月15日(土) 14:00~15:30 定員 20名
- 上池袋図書館「大人の調べる学習講座~問題解決力アップ!~」
日時 7月22日(土) 13:00~15:00 定員 20名
- 目白図書館「大人の図書館タンテイ~図書館調べもの講座~」
日時 7月29日(土) 10:00~10:30/15:30~16:00 定員 15名

開館時間	中央図書館	駒込・上池袋・千早図書館	巣鴨・池袋・目白図書館	雑司が谷図書貸出コーナー
平日 午前10時~午後10時 土日祝 午前10時~午後6時	●駒込・上池袋● 平日 午前9時~午後8時 土日祝 午前9時~午後6時 ●千早● 平日 午前9時~午後7時 土日祝 午前9時~午後6時 ※駒込図書館は、平日は、午前8時から資料の返却と、予約資料の受取りができます。	●巣鴨● 平日 午前9時~午後7時 土日祝 午前9時~午後6時 ●池袋・目白● 平日 午前9時~午後8時 土日祝 午前9時~午後6時	平日 午前10時~午後7時 土日祝 午前10時~午後5時	
○は土日祝の開館時間 ■は休館日	日 月 火 水 木 金 土 ② 3 4 5 6 7 ⑧ ⑨ 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 ② 3 4 5 6 7 ⑧ ⑨ 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 ② 3 4 5 6 7 ⑧ ⑨ 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 ② 3 4 5 6 7 ⑧ ⑨ 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
7月	② 3 4 5 6 7 ⑧ ⑨ 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	② 3 4 5 6 7 ⑧ ⑨ 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	② 3 4 5 6 7 ⑧ ⑨ 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	② 3 4 5 6 7 ⑧ ⑨ 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
8月	⑥ 7 8 9 10 ⑪ 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	⑥ 7 8 9 10 ⑪ 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	⑥ 7 8 9 10 ⑪ 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	⑥ 7 8 9 10 ⑪ 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
9月	③ 4 5 6 7 8 ⑨ 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	③ 4 5 6 7 8 ⑨ 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	③ 4 5 6 7 8 ⑨ 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	③ 4 5 6 7 8 ⑨ 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

本号より新連載が3つスタートしました!3頁の2コーナーはどちらも全3回連載です。どうぞお楽しみに!中央図書館で7月から開講する新講座「源氏物語と仏教」の受講受付が即日定員に達してしまいました。受講をお断りした皆様、申し訳ありませんでした。(高松)

お詫びと訂正
前号2頁「この本カフェ9杯目」で、以下の誤りがありました。お詫びして訂正いたします。
(正) フレーベル館 (誤) フルーベル館